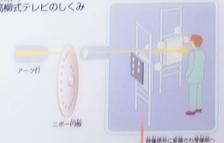


遠くの情景を手に取りるように眺めてみたい。
そんな夢が、ついに実現。

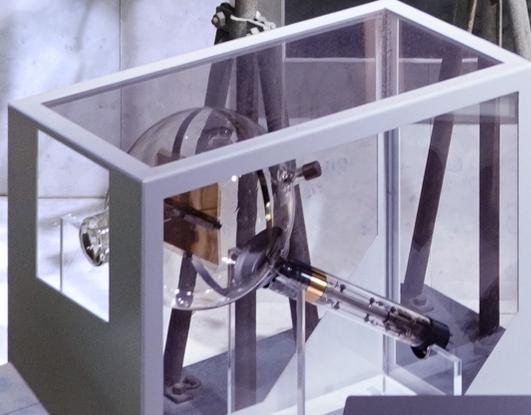
19世紀末から欧米では画像を送る研究が盛んになった。当初は機械的な方法が試みられたが、実用化の決め手となったのは、光電管やブラウン管などの電子管の発明である。この新しい技術に対する研究意欲は日本でも高く、昭和の時代になると高柳式テレビジョンやNE式写真電送装置など、欧米と肩を並べる研究成果が現れた。

高柳式テレビのしくみ



テレビカメラの抽気
高柳式テレビ 送像装置の受光部分

2対で1組、1930(昭和5)年のラジオ放送開始5周年記念展覧会や、1936(昭和11)年に開催で行われた記念展覧会で使用された。被写体を箱裏に置き、ニール管の左端の定着孔を通ったアーク管の光で被写体を照射する。反射光を被写体の右側に設置した光電管で受けて、映像信号とした。



地球館2階：高柳式テレビジョン

2023

2

February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 建国記念日
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 天皇誕生日	24	25
26	27	28				

1
 1 2 3 4 5 6 7
 8 9 10 11 12 13 14
 15 16 17 18 19 20 21
 22 23 24 25 26 27 28
 29 30 31

3
 1 2 3 4
 5 6 7 8 9 10 11
 12 13 14 15 16 17 18
 19 20 21 22 23 24 25
 26 27 28 29 30 31

日本におけるテレビの研究開発は、1923年から始まります。1953年2月にはNHK東京テレビジョンが開局し、テレビの本放送を開始しました。地球館2階では、1930年のラジオ放送開始5周年記念展覧会における公開実験や、1936年に当館で行われた記念講演会で使用されたテレビ実験装置を展示しています。